

(H19.10.26_平成19年度第5回浜益区地域協議会にて)

皆さんこんにちは。既に協議会については事前会議でお話があったと聞いておりますが、合併以後、様々な地域の活性化、振興という意味で、旧自治体の地域の特性が出来るだけ失われないように、逆に地域価値を高めていくことこそ必要だという発想がありました。それは国においてもそうでありまして、法で地域自治区という制度を設けて、これを合併にあたっての協議会の条件となった訳です。

実際、第1回目の2年間の協議にあたりまして、私その時にも申し上げたのですが、協議会のなかで一番やってはいけないことは、支所あるいは市役所が出す資料を追認の形で協議するということだけは、是非やめて頂きたいと…。むしろ役所はそのようなリードを往々にしがちな傾向にありますので、そんな時には、むしろそれを厳しく反論して頂ければというお話をしたほど、地域自治区の自立性ということについて強調させて頂きました。

議会では、支所にもっと緩やかな自由な予算を配分せよという議論が出たり、地域自治区の自立性ということが必ずしも当初の予定どおりとなっていない、手取り足取り、本庁ないしは市役所、市長が規制を加えているのではないかという多くの議論もあったように、一方で、本所における地域自治区がなかなか具体案に踏み込めない、いいプランニングに至っていないというお互いにそういう見合いといいますが、これはどうしてもしょうがないことです。本州先進府県においても合併の初期段階においては理念と現実とに配慮するというのが、大体どこの自治体でも歩んできた道であります。ちょうど私どもが合併して過去のことになりましたが、今、江別市と新篠津村が合併協議をしており、まさに私達が歩んだ道を歩んでいるように、恐らくこの合併というのは決まった方程式がないだけに、百様百様のやり方があるのだと思いますが、この地域協議会というのは、そういう意味ではこれからいよいよ実力を見せる段階に入ってきているのではないかと考えております。これまで様々な取り組みのご議論がまさに肥やしとなって具現化するという段階に入ってきておると思っています。また、地域協議会そのものを選択した市長としての立場から申し上げるならば、その時期構成というものもこの期限において、皆様方に今日お渡しさせて頂きました委嘱状の理念において、仮に議論が議論のままで終わったとするならば、やはりそれは市長のミスリードだとなるわけであり、適切な支援が為し得なかったと取らざるを得ないと思っております。ある意味ではここに至って不退転の覚悟で、協議会からの具現性というものに期待するという状況にあります。

合併後において、合併の検証というものをマスコミは今、盛んにやっております。それは近く第2次の合併が一斉に起こる機運に今なっております。1次の時にはまだまだ財政というものがしっかりその先行きを見据えていない段階で、北海道の土地の広さとその利便性の不都合さだけで合併というものが葬り去られた傾向がありますが、実際、平成15年と平成19年の財政環境を比較する時に、多くの町が三十数%の交付税のカットという状況に至りました。あの時に奈井江を中心とした中空知の一部は広域連合というものを試行致しました。しかし今、奈井江を中心とした2市3町による合併はもう避けて通れないようになってきているように、周辺状況も大変厳しくなっておりますが、その中であって、この石狩、厚田、浜益の合併が一つの北海道のモデルになっていることは間違いありません。そしてその

中で、地域自治区というものがどう活躍されているかということが非常に注目の的になっているだけに、各マスコミは今、この石狩、厚田、浜益の動向を大変気にして取材に入っています。近々また新聞に載ると思います。私共はメディアを気にしないという訳にはいかないと考えております。従いまして、これから一つ一つがマスコミにさらされるのだということも、これまでの2年間と些か違うのではないかと考えておりますし、私自信も積極的に協議会の中身をメディアに出していくことが必要だと思っております。協議のプロセスを開示することが非常に必要なのだと。それをやらない限り地域の皆さん方については来ません。問題意識を持たないということもよく分かっているつもりでありますので、ここの中だけで議論するのではなく、地域全体がこの問題に取り組む議論の参加者になっていかななくてはならないと思っておりますけれども、広範な議論が必要だと思っております。そしてそこに具体案というものを纏めていかななくてはならないと...。その具体案に対して確実なる財源の確保というものを私共は約束をしていかななくてはならないと思っております。

一番やってはいけないことを言わせて貰いますと、ちりちり、ちりちりとこの1億のお金を、この事業に30万、この事業に50万、この事業に40万と使っていくと、1億というお金は10年持たないで無くなってしまいます。その時に何が残るかというお金の使い方だけは、絶対にしてはいけないと思っております。逆にこの事業に2千万、5千万という投資をして、その年の政策目標に確実に達することができるという事業にこそ使うべきだと思っておりますので、欲しいものの財源にその財源を充ててはいけないということです。それは通常の予算要求の財源を使うべきであって、地域振興資金である基金というのは、地域が必ずその見返りを享受できる事業でなくてはならないというのが、基本線だと思っておりますので、そのことを是非、改めてもう一回このスタートするにあたりまして皆さんにお願いを申し上げて、地域が今後活性化されることを大いに期待をします。

敢えて私の方から一言申し上げるならば、今年、浜益の地域フォーラムをさせて頂きました。私が、合併した時に浜益で最も優れているのは、地域に残されている文化、風土、歴史などそういう浜益ならではの本当に素晴らしい文化というものがここにあることから、これを何とか地域の人達にも知って頂きたく、それから地域外の札幌市民を含めた道民多くに知って頂きたいということでフォーラムを開きました。改めて、例えば一つとるとユーカラの里としての存在というのは大変大きなアピールを産むこととなります。ユーカラ一つで実はサミットのその重要な人達をこの地域に呼ぶことも出来ますし、サミットの話にもなるという大きなテーマ性を持ってあります。それを是非知って頂きたくフォーラムを開いて頂きましたが、これは最終的に本になって、子ども達を読める浜益のユーカラの本を作りたいということで、今、その作業に入っております。こういう地域の地域アイデンティティ、地域の特性、地域性というものをどのように残していくかというのも一つ浜益区地域協議会の大きなテーマではないかと思っております。これは決してこだわるものではありませんが、沢山材料はある訳ですから、その中からどこにお金をかけて、そしてそれをどう地域の活性化、地域の産業化にするかを考えて頂ければと思っております。

もう一点申し上げるならば、適沢のコミュニティセンターが市の財政再建計画の中で、売却を前提に廃止をするということで計画が上がりました。これは最終的な計画の責任者は私でございますから、出来上がった計画そのものにもとより責任を持つ立場にありますが、議論の経過の中において、この適沢のコミュニティセンターが極めて利用度が低いということ

もっと考えていかななくてはならないのではないかと。立派な施設があることが地域の誇りではなく、立派な施設を立派に使うことが地域の誇りではないか。支所の方にも市の職員にも何回もこの問題を問いかけました。しかし、1年間経った結果、そこに対して殆ど声が上がり、私は週に1回使われている適沢のセンターが、あそこのセンターでなくてはならないと、そこしか使えないのだという理由をどうしても職員や支所から聴くことが出来なかったです。地域協議会はその問題に本当にきちっと答えを出したのだろうかということも含めると、まだまだ来年の4月からスタートする予算に対して、書いた紙はいつでも変えれますし、いいことであれば変えることが出来ます。マイナスであれば変えることは出来ませんが、「市長こういう話だったらどうなのだろう」と持ち込んできた時に、私は決して計画にのって廃止することになっているから廃止するとは言いません。ただ、何もしないで、何も使わないで、今のままで残せと言ってもそれは行政の投資効率があまっても悪すぎると言わざるを得ないと思いますので、これらも含めて、地域に残っている無価値化している財産をどう有価値化するかということもやはり必要な議論でないかなと...

市の新しいセクションに2人職員を座らせて頂きました。ファシリティマネジメントと言いまして、もう価値がないとされている施設、あるいはものを、調べてみると価値があるということです。例えて言うならば、この支所の空間スペース、黙っていたら恐らくこのまま何も使わないのではないかと。ところがみんなでこの空間を何かに使えないかというふうにして使ったとしたら、そこに新しい価値が...。庁舎だから庁舎にしか使えないというのはあり得ないと思います。そういうことを一つ一つ考えていったら、適沢のコミュニティセンターについても本当にもう一回、真からその活用度というものを考えるべきじゃないかと思っておりますので、出来上がった財政再建計画そのものに全く逆作用の発言をさせて頂いて恐縮には存じますが、是非それらも含めて、地域協議会が活発な積極的なそして地域の生き残りをかけて、しっかりとした議論をやって頂けるようお願いを申し上げます。そして、そのためでしたら私共は何回でも足を運ばせて頂きますので、是非、市役所が持っている、支所が持っている能力というものも活用して頂ければと思います。

今日は本当に忙しいところお集まり頂きました。また、難しい問題を皆さんに課すことに対して誠に恐縮ですが、これからもどうぞ宜しくお願い致します。どうも有り難うございました。